

第1回調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会 議事要旨

日時：平成29年3月31日（金）10:00～11:15

場所：電力広域的運営推進機関 会議室A・B

出席者：

- 大山 力 主査（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）
- 辻 隆男 主査代理（横浜国立大学大学院 工学研究院 准教授）
- 福田 拓広 委員（東京電力パワーグリッド(株)系統運用部 系統運用技術Gグループマネージャー）
- 佐藤 幸生 委員（中部電力(株)電力ネットワークカンパニー 系統運用部 給電計画Gスタッフ課長）
- 中瀬 達也 委員（関西電力(株)電力流通事業本部 給電計画Gチーフマネージャー）

オブザーバー：

- 赤松 徹也氏（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 課長補佐）
- 青鹿 喜芳氏（資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課 課長補佐）
- 前川 和之氏（電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課 課長補佐）

配布資料：

- （資料1）議事次第
- （資料2）調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会 名簿
- （資料3）調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会の設置について
- （資料4）検討項目・スケジュールの確認
- （参考資料1）Discussion points – EGC Workshop (Statnett)
- （参考資料2）ELECTRICITY BALANCING GUIDELINE (ENTSO-E)
- （参考資料3）ELECTRICITY BALANCING – EUROPEAN IMPLEMENTATION PROJECTS (ENTSO-E)

議事概要

- ・ 検討手順 Step1 における項目⑤、項目⑧までの検討について、5月中下旬を目途に検討を進めることとした。
- ・ 4月、5月の検討の進め方の詳細については、別途事務局と一般送配電事業者メンバー間で調整することとした。

〔主な意見〕

- ・ 調整能力を具備した設備が維持されていることが前提になると考えるが、この点は本作業会で議論するのか。
- （事務局）調整能力を具備した設備を維持していく方法については本作業会の検討範囲外と考えており、まずは作業会の検討範囲の項目に重点を置いて検討を進めることとしたい。ただし、懸念が

あれば課題を整理のうえ発信していくことも考えられる。

- 広域的な調達・運用について、2020年より前に実施できることがあるのかという検討は、本作業会で行うのか。
→ (事務局) 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会において事務局から提案したとおり、本作業会は需給調整市場に関する検討にフォーカスし、現在の電源 I・II の公募における広域的な調達・運用については、本作業会とは別に議論することとしたい。
- 海外事例調査について、海外の制度の仕上がりだけではなく、そこに至った経緯等も含めて調査いただきたい。
→ (事務局) 文献調査だけでは難しい部分もあるが、念頭において調査したい。
- 技術的な検討においては、安全サイドに考えることもあるかと考えるが、VPP や DR 等の新しい調整資源の参入の観点から、停電に至らない (セキュリティに影響のない) 範囲で少し裕度を持つという視点も入れて検討いただきたい。
- 検討の手順について、Step1 は定性的な検討になると考えており、2020年に拘らずに定性的に技術的な課題に抽出等を行い、Step2 で定量的な検討を進め、少しずつ2020年にどこまで出来るかにフォーカスするものとする。
- 調整力の必要量や広域的な調達・運用については、今後の需給調整市場の議論における重要なポイントとなるため、技術的な観点からの事実をしっかりと整理いただきたい。

以上